

会 議 録

会 議 の 名 称	令和５年度第１回白岡市環境審議会
開 催 日	令和５年７月１４日（金）
開 催 時 間	午前１０時００分開会 ・ 午後０時５分閉会
開 催 場 所	白岡市役所４階 特別大会議室
会 長 の 氏 名	弓木 裕一
出 席 者 の 氏 名・出席者数	白岡市長 藤井 栄一郎 白岡市環境審議会委員 仁木 俊夫、福田 慎太郎、久保木 孝夫、伊藤 昌美、 弓木 裕一、浅野 悦子、鈴木 純二、稲橋 雅則、 片山 俊樹 １０人
欠 席 者 の 氏 名・欠席者数	齋藤 俊明 １人
説明員氏名	(1) 令和４年度リーディングプロジェクト関連事業の 実績について：今泉主査 (2) 令和４年度白岡市環境基本計画（実績報告）につい て：今泉主査 (3) 令和５年度白岡市環境基本計画（当初事業）につい て：今泉主査
事務局職員の 職・氏名	生活経済部 部長 神田 正 環境課 課長 関根 啓文 環境課 主幹 折原 浩幸 環境課 主幹 吉川 隆志 環境課 主査 吉田 宏 環境課 主査 中澤 聡 環境課 主査 今泉 和也 環境課 主任 松原 直美 ８人
その他会議 出席者の職・ 氏名	（傍聴人） ０人

会 議 次 第	1 開 会 2 委嘱書の交付 3 市長あいさつ 4 委員紹介 5 議 事 (1) 会長及び副会長の選出 (2) 令和４年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について (3) 令和４年度白岡市環境基本計画（実績報告）について (4) 令和５年度白岡市環境基本計画（当初事業）について 6 そ の 他 7 閉 会
配 布 資 料	○会議次第 ○白岡市環境審議会委員名簿 ○資料１ 令和４年度リーディングプロジェクト関連事業実績 ○資料２ 令和４年度白岡市環境基本計画進行管理票（実績報告） ○資料３ 令和５年度白岡市環境基本計画進行管理票（当初事業） ○参考資料 白岡市環境基本条例 ○当日配布資料 地域脱炭素移行・再エネ推進事業計画（重点対策加速化事業）

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
折原主幹	1 開 会 会議を開会
藤井市長	2 委嘱書の交付 藤井市長から代表して仁木委員に委嘱書を交付
藤井市長	3 あいさつ 藤井市長からあいさつ
折原主幹	4 委員紹介 委員の紹介 事務局職員の紹介
折原主幹	5 議 事 (1)会長及び副会長の選出について 課長が仮議長となり、議事の進行を行う。
関根課長	会長及び副会長は、白岡市環境基本条例第30条の規定により、委員の互選により定めることとなっているが、いかがするか。
A 委員	事務局に腹案はあるか。
今泉主査	会長を弓木委員、副会長を久保木委員に御協力願いたい。
関根課長	事務局から腹案が提案された。委員にお諮りしたい。
委員一同	異議なし。
関根課長	それでは会長を弓木委員、副会長を久保木委員とする。
折原主幹	円滑な議事の進行に感謝する。 会長及び副会長に選出された2人から、あいさつを

折原主幹	いただく。
弓木会長	会長あいさつ。
久保木副会長	副会長あいさつ。
折原主幹	それでは、議事進行については白岡市環境基本条例第31条第1項に基づき、会長に依頼する。
弓木会長	これより議長の職を務める。 (2)令和4年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について 議題(2)令和4年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について、事務局から説明を求める。
今泉主査	資料1に基づき説明。
弓木会長	事務局の説明が終了した。 説明に対して質問等はあるか。
B 委員	1点目として、リーディングプロジェクト1の数値目標の中に、「市民1人1日当たりのごみの排出量」という項目がある。この中には資源ごみは含まれているのか、内訳を教えてほしい。 2点目、これは質問というよりは意見としてだが、リーディングプロジェクト3について、子供や若い人達を含めて環境に対する様々な取組が行われていることについて評価したい。 私は防災についての活動をすることがあるが、そこでは防災について感度が高い人を育成していくことが多い。しかし、環境についてはいかに底辺の底上げをしていくかが重要であると考えます。スポット的なイベントも大切だが、参加者は感度が高い人がほとんどだと思うので、全体での底上げとなると学校での教育というのは有効である。
折原主幹	1点目については、手元に詳細資料がないため、一度資料の確認をさせていただき、後ほどお答えを申し

折原主幹 関根課長	上げる。 2点目については意見のとおり、そのことを意識しながら今後も取り組んでいく。
弓木会長 C委員	他に質問はあるか。 リーディングプロジェクト3、教育指導課の市内小・中学校におけるSDGsをテーマにした環境学習についてだが、179回というのは、これは小・中学校全体での数字か。また、それらを指導するのはどのような人か。
今泉主査	対象は市内の小・中学校全体となっている。 また、講師については基本的には教員だが、地域に関連した内容となるものについては、地元の方が一緒にいることもあると伺っている。
関根課長	補足だが、以前、指導主事の先生に話を聞いたことだが、環境教育を行う先生方は一定の研修を受けていると伺っている。
A委員	3点ある。 一つ目は、市内では今、マルシェが多く開催されている。そういったところで啓発を行っていくことで、環境そのものに対する意識の高揚や環境基本条例、環境基本計画の認知度のアップにつなげていくのも手段かなと。 二つ目は、リーディングプロジェクト1の数値目標の「公共施設への太陽光発電システム設置基数」について、1基増加したとのことだが、これは元々市内にあったもので、所管していたのが消防署から市に移っただけである。 言い方は悪いが、何も努力せずにこのように増えたものについては除外するとか、令和7年度の目標値を見直すなど検討した方がいいのではないかな。

A 委員	三つ目は、リーディングプロジェクト2の「川の国 応援団登録数」の団体数が1団体増えている。 これについては私が所属する団体が登録したもので、街づくり課と共同で、柴山沼でカヌー体験やマルシェなどのイベントを行った。令和5年度も私がもう一つの団体で登録する予定である。 登録に至った理由は、活動時の保険加入や啓発品などの物品の提供があるので、とてもいい制度であると思う。 もう少し登録する団体が増えてもいいと思うので、市からも登録についてPRを行っていくことが必要だと考える。
関根 課長	1点目については、マルシェ等のイベントの機会を伺い、周知していくように努める。 2点目の太陽光発電システムについては、令和7年度の間見直しの際に数値を見直すなど考えていく。 また、ゼロカーボン推進室において、今後太陽光発電システムについての取組がある。その件については後ほど説明する。 3点目の川の国応援団については、すでに市のホームページに掲載しているが、今後も啓発に努めていく。
C 委員	イベントに関連してだが、明日、生涯学習課の事業で夜の観察会を行う。今回は柴山沼周辺で昆虫観察を行うのだが、申込者が100人を超える人数となった。せっかく申し込んでくれたので、全員が参加できるように2部制にした。 こういった事業に関心を持っている人が多くいるので、私もPRを行っていく。
D 委員	職務で西小学校に行くことがある。 西小学校には太陽光発電システムが設置されている

D 委員	と思うが、他に設置されている学校はあるのか。
関根 課長	南小学校に設置している。
D 委員	西小学校は発電状況が分かるモニターがあり、それを見ながら「今日はたくさん発電しているね。」など言いながらうれしそうに見ている。
	今後、太陽光発電システムを設置する公共施設については、是非モニターも設置して、発電状況が分かるようにしてほしい。
弓木 会長	他に意見はあるか。
委員一同	なし。
弓木 会長	意見もないようなので、議題(2)令和４年度リーディングプロジェクト関連事業の実績については終了とする。
	続いて、議題(3)令和４年度白岡市環境基本計画（実績報告）について及び議題(4)令和５年度白岡市環境基本計画（当初事業）について、それぞれ関連があるため事務局から一括で説明を求める。
今泉 主査	資料２、３に基づき説明を行う。
弓木 会長	事務局の説明が終了した。
	説明に対して質問等はあるか。
E 委員	環境コミュニケーションについてだが、これまでの実績と今後実施する予定はあるのか伺いたい。
	また、はびすしらおかの太陽光発電システムだが、実績の情報発信は行っているか。
	発電量などの見える化を行ってみてはいかがか。
	こういったところで市の環境に対する取組や環境基本計画の認知度のアップにつながるのではないか。
中澤 主査	環境コミュニケーションについては、平成２８年度に日産化学で実施をしたことがあるが、その際に事業者負担が大きかったということもあり、その後は実施

中澤主査	できていない。
関根課長	しかし、事業者や近隣住民の方にとって、とてもメリットがある事業なので、引き続き推進を図っていく。 現時点で、はびすしらおかの太陽光発電システムは故障しており、修理していない。 今後は他の施設と合わせてモニターの設置を検討していく。 また、太陽光発電システムについての実績については、現在公表はしていない。 例えば、こもればの森に太陽光発電システムがあるが、その実績を市公式ホームページで公表するなど、今後検討していきたい。
E 委員	市公式ホームページでの公表という話があったが、ホームページへの掲載では時差が生じる。 モニターを設置してその施設に来た人が見えるようにしてほしい。 また、環境コミュニケーションについては、大変だということが分かったが、工業団地などに呼び掛けて、実施してもらいたいと思う。
A 委員	はびすしらおかの太陽光発電システムは、令和5年度の当初事業に「50KWHの発電能力を有する太陽光発電設備により、節電とCO2の削減を図る」と記載があるが、修理して発電をするという解釈でいいか。
関根課長	この資料を見るとそのように思われるが、恐らく現時点で修理する予定はない。記載について見直していく。
C 委員	「ふるさとの森保存事業」についてだが、令和4年度の実績報告の評価が「やや下回る」となっている。 これは、ひこべえの森について、そこに私有地があるが、それを県有地にする計画で、それが達成されて

C 委員 今泉主査 弓木会長 B 委員	いないからという評価か。 ふるさとの森は市内に 3 か所あり、その総面積が令和 3 年度から比較して減少したということでこの評価である。ひこべえの森の私有地を県有地にするということではない。 残っている場所について、引き続き保全を行っていく。 他に質問はあるか。 資料 2 の 1 ページ、農政課で実施した「農地流動化奨励事業」については、「当初の目的を達成したので廃止」となっている。普通感覚だと、「市内の遊休農地の転用が進んだ。そのため廃止する。」という表現がいいのかなと。 この施策については非常にいいものだと思っていた。元々荒れていたところに作物を育てるということで、自然との共生、また経済政策としても成り立っている。 今手元に資料はないと思うが、市内の遊休農地の状況についてどのようになっているのかわかる資料の提供を、次回の会議等でいただけるとありがたい。 また、いくつかの事業についてだが、「取組の詳細・実績」が「市公式ホームページで周知を行った」などの手段を記載しているものがある。 例えば資料 2 の 5 ページ「ごみの収集分別方法の周知」は「蓮田白岡環境センターHPとリンクさせ周知を図った」となっているが、「周知した」と「周知して、それがどの程度広まった、認知された」というのは全く別の捉え方である。民間にいた私としては乱暴だなと思った。 そうではなくて、「〇件やりました」とか目標の数値
--	--

B 委員	などを立てて、それに対しての評価をするべきだと思う。
関根 課長	来年に向けて検討していく。
F 委員	「ごみの収集分別方法の周知」に関連して、たまたまだがつい最近 L I N E で白岡市の友達登録を行った。 L I N E では「今日の自分の住んでいる地区は何ごみを捨てる日」ということを前日に通知してくれるし、その画面から簡単に市のホームページを見ることができるので、とても便利である。まだ登録をしていない委員の方がいれば、是非登録してみしてほしい。
A 委員	ごみの件に関連してだが、意識啓発のアイディアとして、コンポストをお勧めしたい。今日、実はコンポストを持参している。 この布製のトートバッグがそうなのだが、この中には土と生ごみが入っている。以前までは家の前の畑に捨てていた。私は生ごみを燃やして無駄なエネルギーを使うことは馬鹿馬鹿しいと思っているので、これからは畑に捨てればいいと、コンポストはマンションとかに住んでいる人がやればいいと思っていたが、これはリビングに置いてできるので、穴を掘る手間も省ける。においもしないし、ぬか床を育てるように生ごみを入れてかき混ぜれば 3 日くらいで分解してくれる。 やり始めて 1 か月くらいだがはまってしまい、気が付けば「次は何を入れようかな。これは入れても大丈夫だな。」なんて、分別の意識も高まった。 生ごみは捨てるのではなく、コンポストを設置して減らすということを普及・啓発することはできないか。 私が持ってきたものは 5, 0 0 0 円くらいした。欲を言えば補助金の交付やレンタルを行うことができない

A 委員	いかなと。
D 委員	何年か前にコンポストをやっていたが、土が増えてしまいその処理ができなくてやめてしまった。土を捨てる場所がない人には制限がある。 また、ごみ関連でごみゼロ・クリーン運動についてだが、今は市では年 1 回の開催となっている。 実施した後は「街がきれいになったな。」と実感するが、しばらくするとまたごみが落ちている。 そして、参加者も減っている。 きれいな街を保つために、年に 2 回実施するのはいかがか。 知り合いの住んでいる自治体では、参加者に苗を配るなどして参加者の確保をしているそうなので、そういった取組をするのもどうか。
折原主幹	ごみゼロ・クリーン運動は、5 月 30 日の語呂合わせに準じて、全国的に行われている。市では行政区単位で行っているが、このほかに環境美化活動という個人、団体を問わずボランティアでごみ拾いを行ってくれる方に対しては、ごみ袋の提供などを行っている。 引き続き、きれいな街を作っていけるように啓発を続けていく。
A 委員	コンポストの土の件の補足だが、福岡県を発祥とした半径 2 キロメートルの中で循環していく取組があり、つい最近、県でも資源の効率的・循環的な利用に取り組む企業を支援する「サーキュラエコノミー推進センター埼玉」というものを開所した。 このタイプの生ごみを処理する人たちでグループがあるところもあり、そこでは土を受け入れられる人が引き取るシステムが構築されているそうである。 畑を持っている人は、栄養価がある土なのでそれを

A 委員	使って野菜を育てているそうである。このような循環型の動きが広まりつつある。 もしD委員がまたコンポストを使ってみて土の処分に困るようであれば、うちの庭にいくらでも撒く場所はあるので、遠慮なく言っていただければ。 あとは菁莪あおぞら会という団体が有機栽培で野菜を育てているので、そういったところも喜んで引き取ってくれると思う。
C 委員	私の妻が同じものを持っているのだが、まさかコンポストだとは思わなかった。今後の様子を見ていきたい。 先ほどの進行管理票に戻るが、色々と細かな事業を行っていくこともいいが、大きなこと、地球規模のこととして事業を展開していくこともいいのでは。国や県など、それぞれの管轄はあると思うが。 私は環境省が実施している自然観察ツアーに参加することがあるが、そこでは地球規模の話をする。もちろん、細かなことを聞けばそれについても答えてくれる。 私は、森は地球環境を知る第1歩だと考えている。 昔の話だが、アメリカの国立公園に行ったことがあるが、そのガイドも地球規模での環境に関すること、生物に関する事など幅広い知識を持っている。 地球のことを通していけば、細かなこともわかるという考え方なのかもしれない。 最終的に何が言いたいのかというと、ひこべえの森にもっと市民の人が来やすいように、お金をかけてほしいという希望を伝えたい。
F 委員	以前、ひこべえの森で環境審議会の何かをやった記憶があるが。

C 委員	おそらく別の会議だと思う。
F 委員	一度ひこべえの森を見るのもいいかもしれない。
C 委員	明治神宮の森も自然豊かであったが、伐採されることになった。それは経済活動のために自然が破壊されてしまった結果である。ただ、私は自然があって、その次に経済活動があると思っている。 自然を守るという優先順位を上げてもらいたいというのが希望である。
弓木会長	時間もそろそろというところなので、最後に何かあるか。
吉田主査	1 人 1 日当たりのごみの量について、詳細資料が手元に用意できたので報告をする。 この数の出し方は、白岡市内の方がごみ集積所に出したごみと直接持ち込んだごみの合計 14,877 トンを、4 月 1 日現在の人口である 52,721 人で割り、さらにそれを 365 日で割ったものとして出された数字である。 ごみには可燃ごみ、不燃ごみ及び資源物の全てが含まれている。 なお、リサイクル率については白岡市単独の数字は出ていないが、蓮田白岡環境センターとして、24.3 パーセントとなっている。
B 委員	今後のまとめ方として、内訳を記載していただければと思う。
弓木会長	議事が全て終了したため、議長の職をおりる。
折原主幹	6 その他 その他に関して、ゼロカーボン推進室から説明がある。
吉川主幹	地域脱炭素移行・再エネ推進事業計画（重点対策加

吉川主幹	速化事業）に基づき説明。
折原主幹	質問等はあるか。
委員一同	なし。
折原主幹	そのほか、各委員から何かあるか。
A 委員	情報提供として、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称が「デコ活」に決定した。 これを機に、白岡市内でも環境に関する活動が広がり、意識が変わるといいなど。
C 委員	私はこの言葉が嫌である。 もっとわかりやすい言葉を使うべきである。
折原主幹	他に何かあるか。
委員一同	なし。
折原主幹	7 閉 会 会議を閉じる。 以 上